

2009年 関東実業団リーグ試合結果報告書

栃木県男子代表 本田技術研究所

2009年9月7日(月)

(株)本田技術研究所

(記)木村 寛

結果

一勝二敗で予選Bリーグ敗退

メンバー

監督 木村 寛
選手 木村 寛
吉村 雄太
奥野 隆
今野 辰二郎(欠場)
萩原 優幸
根本 昌幸
(登録順)

大会概要

1. 主催 関東テニス協会
2. 主管 千葉県テニス協会
3. 後援 千葉県教育委員会 千葉県体育協会
4. 協賛 S R Iスポーツ株式会社・株式会社ダンロップスポーツ
5. 協力 株式会社JTB首都圏 ホテルグリーンタワー千葉
ホテルポートプラザ千葉 ホテルニューツカモト
6. 運営協力 株式会社TS-Office
7. 期日 平成21年9月4日(金)・5日(土)・6日(日)
8. 会場 千葉県総合スポーツセンター・テニスコート
〒263-0011 千葉県千葉市稲毛区天台町 285 番地
TEL : 043-251-1281
サ - フェイス : 砂入り人工芝コート (16面)
9. 種目 男子16チ - ム・女子12チ - ムによる実業団対抗戦
(以下, 男子の要綱のみ抜粋)

10. チーム編成

部長・監督・マネージャ - 各1名、選手4名以上9名以内
(各チームの連絡担当者は登録メンバーに限る)
選手が部長、監督、マネージャ - を兼務できる。
選手は平成21年7月1日現在その実業団の社員
(嘱託を含む。但し、雇用契約のある者)に限る。
アマチュアの外国籍選手及びプロフェッショナル
(国籍を問わずJTA競技者規定により登録済の選手)も含む。
又、資本関係があるグループ会社(連結決算対象企業)の社員
を自社の選手として登録できる。

但し、外国籍選手の出場は1対抗につき2ポイント以内とする。
3年以上日本に在住するアマチュアの外国籍選手の出場制限はしない。

チームは、同一実業団であれば関東地域内に登録された選手
でベストメンバーを組むことができる。

申込み後のメンバー変更は、大会初日(9月4日)朝の監督
者会議において、1名の変更又は登録人数枠内で1名の追加を
認める。

11. 試合

【ブロックリーグ戦】 : 9月4日(金)・5日(土)

各ブロックのラウンドロビンにより順位を決定する。

【決勝トナメント】 : 9月6日(日)各ブロック上位2

チームの順位別トナメントを行ない順位を決定する。

オーダー交換時には出場選手全員が整列すること。

決勝トナメントの組合せ抽選を、ブロックリーグ戦終了後
に行なう。

日程は、天候及び試合進行により変更することがある。

12. 試合方法

2シングルス+1ダブルスの3ポイントの対抗戦

同一選手はシングルス、ダブルスに重複して出場できない。

ブロックリーグ戦は、16チームを4ブロックに分け、各ブ
ロックの総当たり戦とする。

試合は3ポイント同時進行又は、リーグ戦は、D S1 S
2、トーナメントは、S1 S2 D の順番とする。

決勝トナメントは、2ポイント先取で打ち切りとする。

ブロックリーグ戦は、全て3セットマッチ(6ゲームズオー
ルタイブレーク)とし、決勝トーナメントは全て8ゲームズブ
ロセットマッチとする。

13. 参加チーム

都県名	東京	神奈川	千葉	埼玉	茨城	栃木	群馬	山梨	主管県	計
男子	5	3	2	1	1	1	1	1	1	16
女子	3	2	1	1	1	1	1	1	1	12

出場辞退その他により参加チームが不足する場合の
の充方法。

1. 出場枠1の希望する都県による抽選
2. 主管県を含む出場枠複数の希望する都県による抽選

14. 使用球

ダンロップ・フォート

15. 全国大会

男子3位・女子4位迄のチームは、平成21年10月9日(金)～10月12日(月・祝)広島市広域公園テニスコートで開催される第23回全国実業団対抗テニストーナメントに出場する。又、男子4位以下、女子5位以下のチームに補欠として全国大会の出場権が得られる場合がある。

21. 大会役員

大会運営委員長	益子 和夫	(関東テニス協会 実業団委員長)
大会運営副委員長	花木内 敬雄	(関東テニス協会 実業団副委員長)
大会運営副委員長	長谷川 英男	(関東テニス協会 実業団副委員長)
ディレクター	近藤 孝司	(関東テニス協会 実業団千葉委員)
アシスタントディレクター	井上 則行	(千葉県テニス協会 実業団)
アシスタントディレクター	柴田 光	(関東テニス協会 実業団茨城委員)
レフェリー	森谷 孝	(千葉県テニス協会 実業団)
アシスタントレフェリー	塩原 照久	(千葉県テニス協会 実業団)
運営委員	中込 利人	(関東テニス協会 実業団委員)
	以倉 正樹	(関東テニス協会 実業団委員)
	寺田 隆	(関東テニス協会 実業団東京委員)
	井上 憲紀	(関東テニス協会 実業団埼玉委員)
	山田 精一	(関東テニス協会 実業団群馬委員)
	鎌田 健義	(関東テニス協会 実業団山梨委員)
	三上 公一	(千葉県実業委員)
	高野 祐介	(千葉県実業委員)
	中野 淳子	(千葉県実業委員)
	細野 敦	(千葉県実業委員)
	古橋 保孝	(千葉県実業委員)
	古川 充	(千葉県実業委員)

佐藤 武男	(千葉県実業委員)
秋葉 秀樹	(千葉県実業委員)
大久保 亮輔	(千葉県実業委員)
中尾 誠	(千葉県実業委員)
竹内 哲也	(千葉県実業委員)
大吉 貴宏	(千葉県実業委員)
工藤 雄太	(千葉県実業委員)
吉田 健吾	(千葉県実業委員)
古橋 省司	(千葉県実業委員)

大会スケジュール

9月3日(木)	12:00~17:00	前日練習
	13:00~	会場設営
	15:00~	ホテルチェックイン
9月4日(金)	6:30~	朝食
	8:40~9:20	練習 各チ - ム 20分
	9:00~9:30	監督者会議(クラブハウス2階会議室)
	9:30~9:50	開会式
	10:00~17:00	各ブロックリーグ戦
	19:00~21:00	懇親夕食会 ホテルグリーンタワー千葉
9月5日(土)	6:30~	朝食
	8:40~9:20	練習 各チ - ム 20分
	9:00~9:20	監督者会議(クラブハウス2階会議室)
	9:30~17:00	各ブロックリーグ戦
9月6日(日)	6:30~	朝食
	8:40~9:20	練習 各チ - ム 20分
	9:00~9:20	監督者会議(クラブハウス会議室)
	9:30~	男子決勝トーナメント・女子決勝リーグ
	全試合終了後	表彰式・閉会式

試合結果詳細

第一対戦

NTT 東日本千葉戦(千葉第2代表)

1勝2敗 負け

D	根本 昌幸	6 - 3	熊切 一彦
	吉村 雄太	1 - 6	松村 和彦
		6 - 1	
		- 1	

S1	木村 寛	0 - 6	斎藤 辰典
		1 - 6	
		0 -	

S2	奥野 隆	4 - 6	横山 稔
		6 - 3	
		4 - 6	
		1 -	

ダブルスはファイナルセットの熱戦の末、勝利をもぎ取る。初出場、根本選手の安定したプレーと、吉村選手の爆発力が抜群に噛み合い、即席ペアとは思えない出来であった。

ダブルス勝利の勢いをそのままにシングルス1でも勝負に持ち込みたかったが、自力に勝る斎藤選手にポイントでは競るものの、ゲームを取らせてもらえず敗退。チャレンジャーとして新たな境地を切り開かず残念な結果となった。

シングルス2は、こちらも初出場の奥野選手が活躍。ファイナルセットに持ち込み、3 - 1と序盤リードしたところで、誰もが勝利を予感したが、その後、相手選手の粘りに屈して敗退。

チーム全体の力が、ところどころでわずかに及ばない印象を受けた。

第二対戦

明治安田生命戦（東京第2代表）

0勝3敗

D	萩原 優幸	2 - 6	井手 信彦
	木村 寛	4 - 6	星村 純平
		0 -	

S1	吉村 雄太	0 - 6	藤田 瑞飛
		0 - 6	
		0 -	

S2	根本 昌幸	0 - 6	細江 政範
		3 - 6	
		0 -	

ダブルスはスコア以上の実力差を感じる内容。テニスをさせてもらえない局面が頻繁に出ることに。最初のプレーとなる、ファーストボレーまで含めたサービスリターン力の差が歴然であった。

シングルス 1 は、とにかく藤田選手が強い一言。

シングルス 2 は根本選手が持ち前の着実なプレーで、見ごたえのあるラリー戦を何度か見せるものの、自力の差を見せられ敗退。特にフットワーク重要性を再認識することとなった。

第三対戦

ニスカ戦（山梨代表）

3勝0敗

D	萩原 優幸	6 - 2	白倉 瑞穂
	吉村 雄太	7 - 5	志村 明紀
		- 0	

S1	木村 寛	5 - 7	雨宮 史雄
		7 - 5	
		6 - 0	
		- 1	

S2	奥野 隆	7 - 5	小幡 征宏
		6 - 1	
		- 0	

本大会最終戦。有終の美を飾ることができ、全員に安堵と喜びが広がることに。

ダブルスは 1st セット序盤から安定してリードを広げる展開。2nd セットで一時リードを

許すものの、実力どおりに勝利を手にするに。

シングルス 1 は、後から始まるシングルス 2 が先に終了した後、ファイナルセットに突入し、日も暮れかけた頃に無事勝利をものにする。2nd セットを逆転したところで勝負ありの感。後は集中力を無くした相手に合わせないように、ゲームに集中するだけで十分であった。

シングルス 2 は、奥野選手がシングルスらしい、時間を有効に使ったストローク戦で有利に試合運び、無難に勝利を決める。

総評

例年、首都圏勢の高い実力に跳ね返されることとなるが、後一步で予選リーグ突破を果たせるところまで持ち込めたことは大きな収穫であった。毎年、チーム力も少しずつ向上し、各人もまた、それぞれが持ち味を向上させ、それを発揮しての団体戦は、大変価値のある輝きを放ったと感じた。

様々な事情から、特にチームでの練習時間をなかなか確保できない状況ではあるが、今年得た収穫を元に、来年も実力を磨いて上位大会を目指していきたいと思う。

最後に、大会出場にあたり、多くのご尽力を頂きました皆様方および大会運営スタッフの皆様方に、厚く御礼申し上げます。



初日、開会式後



二日目、朝のコートサイド